

エネルギー作物「エリアンサス」で被災地支援



私たちは多くのエネルギーを使って便利な生活を求めてきましたが、石油の枯渇や地球温暖化の問題が発生しました。これらの問題を解決するための一つとして、再生可能エネルギー「バイオエタノール」があります。バイオエタノールは、ガソリンに混ぜて使うことができ、これを使うことで石油の枯渇を先延ばしにでき、二酸化炭素の発生も減らせます。

世界のバイオエタノール工場では、サトウキビやトウモロコシのような食用作物を原料としています。しかし、食用作物を原料として使うことで、貧しい人々が食料を手に入れにくくなるという批判が強くなっています。そのため、食用作物以外の原料作物の開発が求められています。

そこで、食用でない「エリアンサス」という植物に注目し、現在、このエリアンサスの栽培方法を検討しながら、東日本大震災復興支援に利用することを研究しています。福島県のいわき市や浪江町（の一部地域）でエリアンサスの試験栽培に成功し、これを原料に使ってペレット（固体燃料）を作ることもできました。現在、エリアンサスのペレットを暖房に使って、温室栽培に利用する新しい栽培システムをデザインしています。



エリアンサスから作ったペレット(固体燃料)を温室栽培に利用する新しい栽培システムをデザイン